

～突撃★ドメーヌ最新情報！！～

## ◆VCN°13 ドメーヌ・ガングランジェ

生産地方：アルザス

新着ワイン 6 種類♪

### ヴァン・ムスー ペット・ナット シャンガラ・ビュル 2015 (白泡)

2015 年は、若木のピノオーセロワが鳥や鹿の被害に遭い不作だったため、アッサンブラージュ比率がピノブラン 80%、ピノオーセロワ 20%と逆転している。(ちなみに前回はピノオーセロワが 80%) また、前回は発酵中のワインをそのまま瓶詰めしデゴルジュマンをしなかったために、たくさんの澱や酒石酸が残ってしまったことを反省し、今回は発酵途中に一度スーティラージュを行い、最後にデゴルジュマンも行っている！当初現地でもリリース仕立ての頃は、泡がグラスの中でゆらゆらと揺れるくらいオイリーで糸が引いていたが、今はそれも消え、思わず背筋が伸びるくらいタイトでキレ味の鋭いペティアンに変化している！

### AC アルザス・リースリング 2015 (白)

2015 年からサンスフルのワインに合わせて、収穫のタイミングは糖度よりも酸を重視したスタイルに変えている！今回、リースリングは他にもサンスフルのモノが同時にリリースされるが、大きな違いはガングランジェ曰く、SO<sub>2</sub>の有無ではなく 100%石灰質の泥土土壤とグレ・ローズの混じった石灰質の土壤というテロワールの違いだとのこと。100%石灰質の泥土土壤は、彼曰く、個性は控えめだがミネラルのキメが細かく酸にフィネスがあるとのこと。今回のリースリングは、香りがまるで香水のように華やかで、個人的には逆に個性がしっかりと立っているように感じた！

### AC アルザス・ピノブラン・サンスフル 2015 (白)

ペティアンに使用した若木のピノオーセロワの区画は動物の被害に遭ったが、このヴィエーユ・ヴィーニュの畑は区画が離れているため全く被害がなく 60 hL/ha と十分な収量が確保できた！2015 年からサンスフルに移行！残糖は 0.6 g/L と辛口だが、シルヴァネール同様にほんのりとした優しいエキスの甘みがあり、その後キレのあるミネラルがビシビシと上がってくる！ガングランジェ曰く、サンスフルに合わせてつくりを変えたことで、ワインはテロワールむき出しのミネラルをダイレクトに感じる味わいになったとのこと！

### AC アルザス・シルヴァネール・サンスフル 2015 (白)

2015 年からサンスフルに移行！収穫のタイミングは糖度よりも酸を重視し、完全辛口のワインに仕上げるスタイルにシフトした！残糖は 1 g/L と辛口だが、ワインはほんのりとした甘さを感じさせるような優しいエキスのボリュームがあり、同時にジンジャーのようなスパイシーさもある！また、アフターに感じるチョーキーなミネラルも心地よい！中華料理などによく合いそうだ！

### AC アルザス・リースリング・サンスフル 2015 (白)

SO<sub>2</sub>添加のリースリングに対し、こちらはグレ・ローズの混じった粘土質石灰質の土壤だ。特徴は、ガングランジェ曰く、グレ・ローズのテロワールにより、酸やミネラルがダイレクトにワインの味わいに反映されること！また、この畑のリースリングは、リースリングの中でも晩熟のタイプのセレクションマサールが植えられていて、さらに畑が北東に位置することもあり、ブドウが完熟してもアルコール度数はいつも低いそうだ！ちなみに、今回も 2015 年という天候に恵まれた年にもかかわらず度数は 11%！だが実際の味わいは、旨味がしっかりと詰まっていて、長熟さえ予感させるポテンシャルがある！

## AC アルザス・ビル・サンスフル 2015 (白)

ビルは区画名で、2014年までシルヴァネールとリースリングを別々で仕込んでいたが、2015年から全て収穫からブドウを一緒に混ぜて仕込んでいる！ビルの土壌は他よりも石灰質の特徴がはっきりと出ていることから、品種の特徴よりも畑のテロワールを一つのワインで表現した方が良いとの判断から2つの品種を混ぜている。ガングランジェ曰く、ビルの石灰質土壌は、ミネラルと酸がとても繊細で味わいに深みのあるワインができるとのこと。

### ミレジム情報 当主ジャン＝フランソワ・ガングランジェのコメント

2015年は、雨のほとんど降らない乾燥した年だったが、ワインの品質的には2007年に匹敵する当たり年だった！冬が暖冬だった影響でブドウの発芽は例年よりも早かった。そのまま霜の被害もなく暖かい春を迎え、雨も適度に降ってくれたおかげもあって、ブドウの成長にアクセルがかかった。開花は5月下旬と例年よりも2~3週間早く始まり、この時点で一時豊作も期待した。だが、6月からほとんど雨のない日が8月中旬まで続いた。水不足の影響でブドウの粒が小さく、成長にもブレーキがかかった。特に、7月終わりから8月初めにかけては、連日の猛暑に見舞われ、ブドウの枝が日照りによりうな垂れ、葉の色が黄色に変色するなど、明らかにバテ気味なのが分かった。幸いにも8月中旬に一度まとまった雨が降ってくれたおかげで、ブドウは再び元気を取り戻し、そのまま収穫を迎えることができた。

### 「ヨシ」のつ・ぶ・や・き

これはグランクリュ・シュタイネールのリースリングの写真だ（写真①）。ガングランジェは、土壌に窒素を与えるために、畑の畝の間に窒素を多く含んだ植物を植えている。ちょうど色とりどりの花が咲き乱れていて、見た目がとてもきれいだ！この後、馬で耕し植物を土に返す作業を行う。この植物が土に返ることで天然の肥料となり、ブドウの成長の活力となる。

写真で見ても分かるように、ガングランジェのリースリングは今のところ病気一つなく健全で、葉の色もとても青々としている！だが、他の生産者の畑に目を向けると、所々葉の色が黄色く色素が抜けたよ

うなブドウの木が多く目立った（写真②）。ブドウの葉が黄色く変色するのは主に鉄分不足が原因なのだが、ガングランジェの畑はボルドー液散布の際、鉄分を多く含んだイラクサも一緒に混ぜているので、鉄分が不足する配はないとのこと。今年は霜の被害はほとんどなく、開花も順調に行われている。このまま何もなければ、リースリングは豊作が期待できそうだ！

一方、これはグランクリュ・シュタイネールのゲヴェルツの写真（写真③）。リースリング・シュタイネールの畑とは数十メートルしか離れていないが、ここは残念ながら4月終わりの遅霜の被害に当



写真② 他の生産者の畑

たってしまった…。リースリングと比べてみても分かるように、成長が少し遅れている。主芽が霜にやられてしまっているので、ブドウの房がほとんど見当たらなかった。そのかわりブドウを付けない副芽が、まるで抑圧されたエネルギーを開放するかのように至る所から伸び出していた。これは芽かき作業が大変そうだ…。ブドウがなっけていなくても作業の手間は同じなので、炎天下の中、収量が全く期待できない畑を作業する生産者の事を思うと本当に気の毒だ…。(2017.6.15.ドメーヌ突撃訪問より)



写真③ シュタイネールのゲヴェルツの畑